

まちの話題

町内の緑化推進のため、町婦人連合会（来間紀子会長）は1月25日、美化活動の一環として坂田交差点の交通島の草刈をしました。来間会長は「中心地にもかかわらず、雑草がおい茂っていたので何とかしたかった。町内の緑化の第一歩をふめたのでは。今後は他団体の協力も得ながら、草木や花を植えていきます」と話していました。



緑あふれる坂田交差点へ

キレイの秘訣を学びました



身近な野菜の知識や調理法をテーマにした「からだのなかも美しくキレイの秘訣教室」が、国民健康保険被保険者で特定健診を受診された方を対象に5回講座で行われ、2月3日で修了しました。減量のためだけでなく、おいしく簡単、その上美容にも効果的な料理を学べると好評で、継続的な開催を求める声もあがりました。

来町健康ペアが浅尾美和・西堀健美選手と会った



2月4日、女子ビーチバレーの浅尾美和選手と西堀健美選手、コーチら関係者が町長を訪問しました。沖縄での合宿中、西原きらきらビーチをトレーニング場所として約1ヶ月利用する予定。上間町長は「県内数あるビーチから、西原きらきらビーチを選んでいただき、嬉しく思う」と話し、浅尾・西堀選手は「結果を出すことが、皆さんへの恩返しだと思いますので、いい合宿ができるよう頑張ります」と意気込みを語りました。

沖縄黒糖を世界に通用するトッポブランドに



1月28日、JAPANブランド育成支援事業（中小企業庁）を受けて、「黒糖」のブランド化を推進する西原町商工会（小波津勇会長）は、町中央公民館で「沖縄黒糖ブランドフォーラム」を開催しました。基調講演では、尚弘子琉球大学名誉教授と垣花郁夫県黒砂糖協同組合製糖技術アドバイザーが「沖縄黒糖の歴史と魅力」について、データをもとに健康への効果をあげ、黒糖が栄養に富む健康食品であると説明。パネルディスカッションでは、学識者や生産者らがパネリストをつとめ、適正な表示や品質の管理、歴史的根拠を明確にしたブランド化の構築やサトウキビの生産量が減少している現状に対し、安定した生産体制の確立などを提言しました。小波津会長は「産・学・官が連携し、地域の事業者が一丸となって、ブランド確立に向けて積極的に取り組もう」と呼びかけました。

「西原町教育の日」みんなで考えよう！西原の教育を



津嘉山朝祥氏

町民の教育に対する意識と関心を一層高め、名実共に「文教のまち」にふさわしい取り組みを図ろうと、「西原町教育の日」が2月7日、西原中学校で開催され、多くの方が参加しました。実践発表では、西原南小と西原東小の読書やあいさつ活動への取り組み、町PTA連合会は「祭りをとおして気づく輪の大切さ」町子ども育成会は「地域をよく知るための安全マップづくり」など、研究の成果や課題を報告しました。講演では、津嘉山朝祥氏（元県教育長）が「子どものやる気を引き出す親と教師のかかわり」と題し、「大人自ら感動し、伝えること。感動しないで、都合のいい言葉だけでは子どもは動かない」と語っていました。表彰式では、町青少年健全育成協議会による善行青少年や青少年育成功労者、スポーツや文化の優良者、町地域ぐるみ学力向上対策協議会による教育実践者が表彰されました。



シマナーそばを作ったよ！

健やかな心身の発達に欠かせない「食生活」について、学童期にしっかり学んでもらおうと、「食生活スキル講座」が1月15日、西原南小学校で開催されました。今回は5年生を対象に「シマナーそばづくり体験」。この日は授業参観日でもあり、児童と一緒にそばづくりに挑戦する親も。JA西原支店女性部や町食生活改善推進員の協力のもと、生地を一生懸命こねたり、薄くのぼしたり、みんなで協力しながら楽しくそばを作りました。周りをハラハラさせながら包丁を使った呉屋郁樹君は、自分で作ったそばを「ウマイ！」と満足そうにたいらげ、平良菜央さんは「包丁使うのはちょっと難しいけど、楽しかった。残りのそばは家へ持って帰って、また作ってみる」と嬉しそうに話していました。

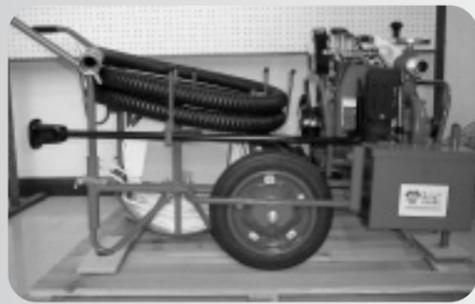
県文化協会賞受賞等祝賀会を開催



伊波清孝氏 根路銘広美氏 我謝伝統芸能保存会 小橋川善弘会長 糸数善昭氏 比嘉玲子氏

1月24日、県文化協会賞受賞等祝賀会及び新春の集い（町文化協会主催）が、町中央公民館で開催されました。県文化協会賞は、地域での文化活動に貢献した方を表彰するもので、町内からは、功労賞に伊波清孝氏（写真部会）、奨励賞に根路銘広美氏（琉舞部会）、団体賞に我謝伝統芸能保存会が受賞。また、糸数善昭氏が県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」保持者、比嘉玲子氏が県指定無形文化財「沖縄伝統音楽箏曲」保持者に認定されました。会では各部会による民謡なども披露され、受賞を共に喜び、さらなる発展を願って、多くの方で祝いました。

女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり



東部消防組合は、女性消防隊や婦人防火クラブの活動を一層充実させるため、宝くじの普及宣伝を目的とした（財）日本消防協会の宝くじ助成事業を活用し、軽可搬消防ポンプ一式や心肺蘇生法訓練人形を購入しました。同ポンプは町陸上競技場へ配置され、災害に強い地域づくりに役立てられます。

生法訓練人形を購入しました。同ポンプは町陸上競技場へ配置され、災害に強い地域づくりに役立てられます。

もちつきで一年元気に乗り切ろう



1月14日、町赤十字奉仕団（城間富子委員長）の「第10回ふれあいもちつき大会」が町民体育館前で行われました。上間町長や障害者地域活動支援センター「さんさん」のみなさんも招待され、代わる代わるもちをつき、つきたてのもちをぜんざいやきなこもちにして、おいしくいただきました。城間委員長は「博愛の精神で、心一つにして頑張ろう」と話し、参加者らはフォークダンスなどで楽しく交流しました。



地域と一緒にふるさと森づくり

「南西石油株式会社第一回植樹祭」が1月18日、同社構内で行われ、住民や各団体、社員など約980名の方が参加しました。これは、会社周辺の緑化を推進する「グリーンベルトプロジェクト」の一環で、「沖縄にふるさとの木の森を」をテーマに、地域と一緒に本物の森づくり-環境保全-を目指しています。アドバイザーに宮脇昭横浜国立大学名誉教授を迎え、沖縄に自生する木を育て、自然の森のような状態に植える方式で、フクギやタブノキなど29種類の在来種7,000本の苗を植樹しました。